

第1回香美市社会教育委員会議事録

日 時 令和4年5月16日(月)9時30分～

場 所 中央公民館2階会議室

参加者 佐々木委員長、内田副委員長、正木副委員長、近藤委員、永野委員、信崎委員、濱口委員、濱崎委員、福田委員、前田委員、宮地委員、白川教育長、秋月次長、依光公民館長、黍原生涯学習振興課長、宇根文化班長、影山スポーツ班長

宇根班長

おはようございます。それでは、定刻となりましたので、ただいまより令和4年度第1回香美市社会教育委員会を開会いたします。私は、事務局を担当しております生涯学習振興課文化班の宇根と申します。よろしく願いいたします。

会の開会にあたり、香美市教育長の白川より一言ご挨拶を申し上げます。教育長、よろしく願います。

(白川教育長 挨拶)

宇根班長

ありがとうございました。それでは初めに委嘱書の交付ですが、時間の関係もありお席に配付させていただいておりますことで、委嘱書の交付とさせていただきますので、よろしく願いいたします。任期は、令和4年4月1日から令和6年3月31日までの2年間となります。どうぞよろしく願いいたします。

続きまして、初回会議のため、自己紹介の時間をいただきたいと思います。

(事務局・委員自己紹介)

宇根班長

ありがとうございました。本日は、ご都合により、体育協会副会長の楮佐古理恵委員と、鏡野中学校校長で香美市校長会会長の前田圭一委員が欠席をされておりますが、ご紹介をさせていただきます。

それでは、まず初めに本会議の成立についてご報告させていただきます。本日、全委員12名中現在10名の委員のご出席をいただいております。委員の過半数の出席がありますので、香美市社会教育委員会運営規則第3条に規定する会議成立の定足数を満たしておりますことをご報告させていただきます。

次に、議事1になりますが、委員長が決まるまで事務局で進めさせていただきます。今年の4月から新しい任期が始まりましたので、香美市社会教育委員会運営規則第1条に従いまして、委員長1名と副委員長2名を互選により選任いただきたいと思います。立候補や推薦の方がいらっしゃいましたらお願いいたします。

それでは事務局案をご提案させていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは、委員長を佐々木委員、副委員長を内田委員、正木委員にお

願いたいと考えております。ご異議ございませんでしょうか。(拍手) ありがとうございます。それでは、委員長と副委員長は前の席へお移り頂けますか。ありがとうございました。

それでは、香美市社会教育委員会運営規則第 1 条第 3 項の規定により、ここからの議事の進行は委員長をお願いいたします。佐々木委員長よろしくをお願いいたします。

佐々木委員長

はい。事務局からそういうお話をいただきました。内田先生がずっとやってくださってもう大きな柱は出来上がってきておりますので、私は交通整理をしながら皆さんのご意見をいただきたいと思います。よろしくをお願いいたします。

内田副委員長

前期まで委員長をさせていただいておりました。今回、またお声をかけていただいたんですけれども、やはり社会教育というのは基本的に地域に根差すというか、地域の方が文字通り中心になって動いていくというのが基本にありますので、そんなことも考えながら今回は委員長を地域の方にと、強くお願いをしておりました。そんなこともありますし、佐々木さんがこれまでまとまってきたとおっしゃっていましたが、むしろこれからが本番ということで考えておりますし、少しでも一緒に勉強させていただいて、先程の香美市に生まれて育ってそれこそずっと過ごせてよかったと言えるようなまちづくりに、少しでも貢献できればという思いがあります。よろしくをお願いいたします。

正木副委員長

香美市に唯一の高等学校として、しっかりと地域を支えていけるような人材を育成したいと考えています。微力ではありますが、どうぞよろしくをお願いいたします。

佐々木委員長

では早速議事に入りたいと思います。

会議の公開について事務局からご説明をお願いします。

宇根班長

はい。資料 2 ページをご覧ください。こちらが、香美市審議会等の会議の公開に関する指針となっております。本会議は地方自治法第 138 条の 4 第 3 項の規定に基づき設置された市の附属機関となるため、資料や議事録等が原則公開となりますが、会議の公開・非公開については各審議会で決定することとなっておりますため、初回会議となります本日、審議をお願いいたします。なお、会議を公開しないとされる場合のうち (1) の香美市情報公開条例第 6 条は 3 ページ、4 ページに添付しております。8 項目ありますが、主に法令等で除外されている場合、個人情報保護に抵触する場合は非公開となります。会議の内容について、原則公開でよろしいかご審議をお願いします。

佐々木委員長

事務局から説明をいただきましたが、会議の公開について何かご質問はありませんか。基本的には公開ということで、個人情報にかかる場合についてのみ審議をして公開か非公開かを決定していくというかたちでよろしいですか。皆さんよろしいですか。はい。ではそれで進めて下さい。

宇根班長

ありがとうございます。

佐々木委員長

では次の令和 4 年度における香美市の取組を、美術館・図書館・中央公民館・スポーツ班・文化班・地域教育班の順にご説明をお願いします。

(宇根班長 美術館の説明)

(門脇館長 図書館の説明)

佐々木委員長

はい、いったんここで区切ってご質問を受けたいと思います。なんでも結構です。特に今回図書館について職員がものすごくやる気をもって資料を作ってくれています。どんなことでも構いませんので、皆さんのご意見をいただきたいと思います。

福田委員

どんなことでも構いませんか？

館長さんが来られたのが 30 年と言っていましたが、それまではどちらにいらっしゃったんですか。

門脇館長

それまでは佐々木委員長と一緒に、鳥獣対策などもやっていました。行政職員です。

福田委員

わかりました。配置転換ということですね。

門脇館長

たまたま司書の資格をもっていたので。

福田委員

なかなかごりごりやる人なので、どこかからヘッドハンティングしてきたのかなと思っていました。

佐々木委員長

適材適所の成功例です。

福田委員

中の話で気になった部分で、子ども司書さんが 188 人もいるじゃないですか。これはどういう制度ですか。

門脇館長

今から 10 年くらい前に、まず県が始めた事業でして、小中学生に図書館を体験してもらおうという授業で、そこで図書館のカウンター業務であるとか・・・そういったことを学んで将来的に図書館に興味をもって司書になりたい子どもを育てていこうと、たまたま第一回目の受講生が私の子どもでして、今本当の司書資格をとっています。これを受けた子どもが司書を目指してとっている例をたくさん見えています。本当にうれしい制度でずっと続けていきたいと考えています。

福田委員

それならこの 188 人は大人から子どもまでいるということですか。

門脇館長

はい。今、一期生が 22～23 歳です。

佐々木委員長

よろしいですか。

福田委員

これを聞いていて、子ども司書に興味があったので、さらにこの子たちに POP を作ってもらったりと言っていたので、子どもにばかり POP を作ってもらうのかと思っていたから、20 代の人から作るということですね。大人司書の制度は作らないですか。図書館の本の構成はどうなっているだろうと思って。子ども司書の頭があって POP を作ってもらう、絵本の話が出たので、絵本とかそっちが中心の図書館なのか、ただ香美市のバランスを考えた時に当然高齢者の方も多いわけで、大人の読み物がどれだけあって、大人の読み物に子どもが POP は作れないし、と思って。それならいっそ大人司書でも作ってしまったらどうだろうと思ったので、ちょっと聞いてみたんですが。本のバランスは普通？

門脇館長

平屋の建物をちょうど半分に分けた南側が児童スペース、北側が一般のスペースになっていまして、配分的には本当に半々くらい。どちらも重点的に力を入れていますので、大人用の POP であればボランティアさんがたくさんいて、やりたい方がいらっしやるのでお願いしたいと考えています。

福田委員

ものすごい図書館に期待していて、自分が本が好きだということもあるんですけど、本を読むということは自らの学びになるわけですよね。探究のきっかけは僕は図書だと思っているんですけど、そういう意味でよってたかって教育とか、香美市みんなで探究をという話になってきた時に、本の役割はすごく大事だと思っていて、だからその本に関わる人を増やしていかないといけない。もちろんボランティアの人は好きだからボランティアで来る、子ども司書たちは子ども司書だから来る、じゃあ我々は。というこの、我々がどれだけ図書館に関わっていけるか、関わるというか本に関わるというか、そういう雰囲気を作っていくことがおそらく探究のまち香美市という部分に繋がっていくので、その辺をひっかける方法として何かないかなと。ボランティアさんがPOPを作ってくれる、そんなことをしたいのは本が好きだからしているのよね、この人たちが作ったものを誰が見る、本が好きの人が図書館に行ってみるんだけど、そうじゃない人のほうが多分多いので、どうやってまち全体を巻き込むのかなというのはすごく興味があって、ものすごく期待しています。なので、その辺りを何か考えたいなと勝手に思っています。

佐々木委員長

はい、ありがとうございます。

宮地委員

文化協会から。私は公民館で毎月短歌の月例会をやっています。三点あります。一つは読み聞かせで会議室をいつ使いますか。

門脇館長

今、貸室として考えているのはいくつかあるのでまず部屋の紹介をします。学習室、静寂読書室、グループ室というのが、大学でいうラーニングコモンズ的な要素を備えた部屋が三つ、おはなしの部屋が一つ、ボランティア室が一つ、後、最初ホールという名前でしたが、途中からつながる一むという名前に変えました。そこは100名程度入ります。今のところ、そのつながる一むの貸室を考えております。他の部屋はやはり閲覧であるとか図書館を利用される方が常時来て使える状態にしておきたいので貸室とはせずに、つながる一むでいろいろ市民の発表であるとか、そういったところを使える部屋として計画を進めております。

宮地委員

定数は最小から最大までどれくらい。

門脇館長

まず、つながる一むは間仕切りで二分割できますが、半分じゃなくて2:3くらいに割れます。全体で使ったら約100名程度、仕切ったら70名と30名程度のお部屋になります。スクリーンもありますのでいろいろ上映したりとか・・・

宮地委員

公民館は条例で使用規則があつて、文化協会の会員は会議室使用料が半額になっています。そういう条例が今作られていると思うのですが、是非中央公民館を参考にして、料金と文化協会加入団体は半額という公民館と同じような規定を入れて頂ければ、使いやすと思いますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

門脇館長

今月の図書館協議会でも重点的にその部分話し合うことになっておひまして、オーテピアの金額であるとか、公民館の金額、そこで金額に差が付かないように香美市の図書館の相場というか、そういった金額を割り出してどういった団体に貸すのか、どういった団体を減免対象とするのか、そういったことを今月話し合つて決めていく方向になっておひます。条例改正、規則改正は9月を予定しておひます。

宮地委員

生涯学習振興課に今年の文化協会加入団体のサークル名と人数がありますので、参考にさせていただければ。それからもう一点。僕は5~7校くらい読み聞かせに行かせていただひていますが、読み聞かせの人数をもうちょっと増やしてもらわないと、同じ木曜日に香長と楠目と片地と、第二幼稚園と、4つ重なるんですよ。時間帯が3つ重なるのでいつも調整してありますが、できれば各学校区で読み聞かせの人がどんどん増えて頂いたらいいので、要請として、ボランティアにも参加させていただきまひますので、そういう募集を。今年退職された竹村先生も非常に興味をもたれておひるので、竹村先生を中心に読み聞かせのメンバーの向上と、新しい人の育成をされたらいいと思ひまひますので、よろしくお願ひしまひます。

白川教育長

読み聞かせのボランティアさんにつきましては、各学校のコミュニティスクール、それから地域学校協働本部の皆さんにもご協力をいただひてできるだけ近くから、校区からおひでいただひけるようになればいいと思ひておひます。また、呼びかけを各学校から積極的におひしていただひておひますけれども、一層してもらえようにお伝へしたいと思ひまひます。ありがとうございます。

佐々木委員長

はい。ありがとうございます。他に・・・

永野委員

前回は話があつたと思ひますが、アクセス方法、今でしたらバスも何も通つてないところなのでそういった部分というのは最終的にどうなりましたか。

門脇館長

今、定住推進課と話をしておひまして、市営バスが通るようになりました。テスト運行も今年度する予定となっております。

永野委員

多分今の状態だと、どうしても車を持っている人や自転車、徒歩で来れる人など、地域が狭まってくるので、ぜひそういった部分で市営バスの運行というのは、乗らなくても回数を増やしてあげることによって使われる率が増えるので、とりあえず通しましたではなくてやっぱり定期的に1時間に1本でも通るようにしっかり作っていただくとせっかく作った図書館が生きてくると思うので。イベントをする場合は増便をかけるとか、中だけでなく俯瞰して外の部分もしっかり見据えてやられるとよくなると思う。せっかくいいものができたので。そうしていただけたら。

あともう一つは、開館時間を19時まで延ばしていただいています、子どもは大体18時くらいまで部活をしていますよね。

正木副委員長

山高は19時までです。

永野委員

やっぱりその辺りを加味しないと、本当に図書館を使いたいと思っている人達、もしくは図書館に親しもうとしている若い世代の人達が・・・やっぱりそういった部分で時間帯を、毎日毎日開けなさいというつもりはないけれど、例えば学校のテスト期間中はちょっと延長するとか、情報を仕入れて開館時間を検討されるほうがいいと感じています。それについて前回話した時に、なかなか市だけではだめなので、議員さんを使ったりとか言われたので議員さんにも何名か声をかけさせてもらったのですが、その辺りがピンと来てない方が多いので、そういった部分を前提に話を進めていかれたらいいと感じています。僕も福田先生がおっしゃるように、図書館にすごく期待しています。僕も本を読むのが大好きなので、自分も子どもたちも本に親しめるように、本を手にとれる時間帯、機会を作っていければと思っています。

佐々木委員長

はい、ありがとうございます。

正木副委員長

時間の件ですが、例えば夏時間と冬時間というふうに時期を分けてということも考えられると思います。夏は20時までとか、冬は18時半とか、そういう方法もあると思いました。もう一点は、TSUTAYAみたいにコーヒーを飲みながら本を読めるようなスペースはあるんですか。

門脇館長

今度、飲食室というのができまして、そちらに自動販売機とコーヒーマシン、コンビニにあるような押したら出てくる、あの機械を置きます。それから蓋つきの飲み物であれば、館内はどこで飲んでも大丈夫です。食べ物に関しては、飲食室とテラスで召し上がっていただくようになります。

正木副委員長

いいですね。やっぱりそれがないと人は集まらないと思ったんですよ。素晴らしいです。

佐々木委員長

はい、ありがとうございます。

信崎委員

ご説明ありがとうございました。・・・行ってみたくなるような仕掛けであるとか、雰囲気を出してくださっていると、とても嬉しく思います。昨今、保幼に行く機会があるのですが、できたら図書館に直接ではないですが、修学前の日々過ごす環境の中に、そういうものの整備をもう少し一体となってできれば嬉しいと思います。乳幼児さんですと、本を貸し出すとなかなか痛みも激しいかと思いますが、そこは市民から募って、自分の家にもあったりしますが、もう子どもが成長して使わなくなった図書を公募で拠出して、それを配分していくとか、ちょっとしたコーナーを一体となってボランティアと保幼に入り込んで行って整備するとか、ぜひ修学前から本の世界に親しむ、あるいは文字や言葉の世界を広げるといった環境が一体となったなかに香美市があるとすごく嬉しいと思いますのでまたできる範囲でよろしくお願ひしたいと思っております。

佐々木委員長

はい、ありがとうございます。

近藤委員

貸室のことですが、難しいとは思いますが、可能なら有料で何かをするというのも利用出来たら嬉しいと思います。いい施設ができたので、そこで何かをしたいという地域の方がいたら、でもボランティアで全部やるというのは難しい時もあるので。

黍原課長

例えばどんなことでしょうか。

近藤委員

本当に内内なのですが、去年やったかみめぐりの企画を考えている中で、図書館ができるならそこで作家さんと呼んで何かできたらいいと思いましたが、新図書館はそういう使い方ができないという声を聞いたので・・・。

門脇館長

今考えているのは、営利目的ではなく講師料と材料費だったりの実費、オーテピアも OK になっています。お金儲け的なものではなくてそういったものには対応できるよう、今後話し合っ決めていく予定ですので、ぜひご活用ください。

佐々木委員長

はい、ありがとうございます。それではここでとめておいて、次の公民館以降の説明をお願いして、その後トータルで質問の時間を設けます。では、公民館からお願いします。

(依光館長 中央公民館の説明)

(影山班長 スポーツ班の説明)

(宇根班長 文化班・地域教育班の説明)

佐々木委員長

はい、ありがとうございます。では令和4年度における香美市の取組について、全体的にご質問があればよろしく申し上げます。図書館については、皆さんの期待度が非常に高いので質問がありましたけれども。

宮地委員

中央公民館の事業のものづくりは、去年コロナで指導者養成ができなかったのですが、今年は36人にして9月に実施したいと思っています。内容は、ネイチャーゲームで木の葉っぱとか・・・主体は木材を使ったものづくりですね。長洲町では子どもから大人までが参加して医療費を大幅に低減している。今後公民館事業でいくつか取り入れて開催していただきたいと思っていますので、その時はよろしく申し上げます。

依光館長

今、宮地委員がおっしゃった木育の授業で、県からの補助をいただいて宮地さんが代表となられてインストラクターを養成する講座を、昨年度この中央公民館を会場にして予定しておりましたが事業自体がコロナで中止になっていました。その講座が今年度は開催されるということで、ついては香美市にそのインストラクターがたくさん増えますのでその方を利用した形での事業をお願いしますということです。僕もこの講座に申し込みをしていたのですが中止になったので、今年はぜひ受講して、木のインストラクター・・・楽しみにしております。

濱崎委員

生涯学習の中で一番大事ではないかと考える部分は人材（人材）ですね。それとニーズをつなぐコーディネーターが非常に大事な役目をもっているのではないかと考えます。いろんな地域の人材がいるわけですが、その人材を本当に必要としているところに繋いでいくというコーディネート、コーディネーターが生涯教育の中では非常に大事になってくると思う。その辺りも含めてコーディネーターの養成や、人をよく知っているという人もだんだん高齢化で減っていきます。あの人に頼んだらいいと、人を紹介してくれる人も高齢化で少なくなっています。繋ぐ人も。どんどん広げていくためには“待ち”じゃなくてどんどん出て行く、人材バンクなんかも来てくれる人を待つんじゃなくて積極的にコ

ーディネートしていくということが非常に大事じゃないかと思います。そうしないといつまでも待っている、誰かが利用してくれるだろう、というのではなかなか生涯学習は進んでいかないと思っています。そういうことも考えていただいて、人材の養成・育成もぜひ考えていただければと思います。

佐々木委員長

はい、ありがとうございます。特に公民館は、地区公民館の館長とか多くの人材がおりますので、先程濱崎委員が言われたように、その方とのコーディネートを特に地区公民館の館長でしたらやっていただける可能性も非常に大きくなってくると思いますので、それも含めてご検討いただけたらと思います。

宮地委員

人材バンクの件で、先日中央公民館から工科大の里山プロジェクトをご紹介いただきまして、早速打ち合わせをしまして、・・・タケノコから竹に変わる時期ですが、今から二千年以上前の古代の紙作りは微生物でそれをパルプ化して紙を作るというのがありますので、一緒に微生物発酵から紙を作る、一緒にものづくりをしながら体験して頂くということになりまして、早速今月は竹を桶に浸けて微生物の中でセルロースを分解・・・したいので、昔は灰を材料にして今でいえば石灰液を入れておけば自然の微生物が食べてくれるので、非常に特徴のある紙ができます。そういうことができました。人材バンクのおかげで、中央公民館さんから紹介を受けましてどうもありがとうございました。・・・ご報告させていただきます。

佐々木委員長

はい、ありがとうございます。様々な事業についてもまだコロナが落ち着いていない手探りの状況で進めないといけないと思いますので、コロナ対策を十分に取りながらすべての事業を進めていただきたいと思います。

永野委員

三つほどあります。最初に、公民館事業の人をつなぐ「まちの先生」の部分ですが、学校教育班のコミュニティのほうの地域の方々との連携の部分はどうなっていますか。あれは最終的に「今、進めています」で結果を何も聞いていませんが、そこはどうなんでしょう。

宇根班長

中央公民館の、地域学校協働本部の・・・

永野委員

地域学校協働本部に名簿などすべてがあるので、それを一回見直してそこに声をかけるという話であったりとか、去年の一番最初の頃には「策定をしています」という話でしたが、それから後どうなったかお聞きしていないので。

宇根班長

学校班のほうで名簿自体は統一したものがあるのですが、去年も何度か推進委員さんに集まっていたいて会をしましてその後の方針は課題にはなっておりますが、名簿を皆さんで共有する・・・

永野委員

いえ、まちの先生を作りたいという話がここで決まったじゃないですか。その時の一番最初の母体となる部分で、何人くらいまちの先生ができるでしょうねという話をした時に、それは学校教育班のほうで地域のボランティアの方々がいるからそこから抽出すれば何百人でも上がってくるはずなので、公募をかける前にそれを先に進めて、まずは香美市の庁内できっちりとした連携を組んだほうがいいんじゃないですか、という話をしていたと思うのですが。間違っていないですよ。それをしたうえで今後、プラス公募をかけたほうがいいのかという話をしたいと思います。その部分はどうなのでしょう。

佐々木委員長

要は、学校教育と社会教育がそれぞれ別々の動きをしていたので、それを一つにまとめてみたらどうですかという提案を委員さんからいただきましたよね。

黍原課長

いざ開けてみて一緒にしようとしたら、学校の協働本部のほうのボランティアを繋いでくださっている方が、他のところまで行って教えるほどの思いをお持ちの方があまりいなかったという感触をもっています。

永野委員

それはお聞きしましたが、・・・先生が「それは何人に聞いたの」という話をしたと思います。一人が言ったから全部がそれなのか、片地の方は読み聞かせに来てくれたりする人もいますけど、中でまずちゃんとしてないと人をいくら探そうとしても、広報にもでていましたが、効果が薄いと思います。やっぱり庁内でちゃんとしていないと、せっかく財産があるのに、一回聞いただけで「これはいけません」「できません」ではなくて、各協働本部があるのであれば、協働本部の方に「全員の方に聞いてくれませんか」と、それか「精査してくれませんか」と進めなければまったく意味がないと感じています。公募をかけていますとか、お声をかけていますとかっていうのは、どちらかと言えば内向きの体制で外向きではないです。鏡野中では先日運営協議会がありましたが、来ていただいた委員の中に児童民生委員の会長さんがいらっしまったので、その方に総会でボランティアの募集をかけてほしいので書類を回します、何部必要ですか、80部くらい、じゃあ80部お願いして、運営協議会の方が声をかけますとかたちで動いています。あわせて商工会からも総会があるからその時にボランティアをしてくれる方がいるかもしれないから100枚くらい回してください、と。どんどんそうやって運営協議会の方々はボランティアを増やすためにそういう動きをされています。それでできた部分が今財産としてしっかりあるので、それ

を使わずして人を増やそうとか、有償でもらおうとか・・・営利目的とは言わないが、そういう方々を増やすこととは違うと思います。「よってたかって」と言っているのなら、香美市の中でそういったものができる体制をしっかりと作らないと、市役所の中で縦割りで分かれていては全く意味がないので。もう一度その辺りを精査する必要があるのではないかという話をさせていただきました。なので、これは中央公民館とかそういう問題じゃないですよ。

福田委員

もっと言えば、教育委員会の中で課が二つしかないのになぜその二つが連携が取れていないのかそれを聞きたい。これは何年も言っているが。さんざん議論したけど。

黍原課長

連携が、というより、清岡先生が進めて下さっていて、その清岡先生が片地小学校に転任されて、その後こちらの生涯学習振興課に引き入れてその仕事をやっていきたいと思いますということで進んでいたのですが、名簿を勝手に一緒にするというのは難しいということまでは分かっていますので、永野委員がおっしゃったように名簿に出ている方に関して個々に意向を聞くということをやりたいと思います。それからになります。

福田委員

そうしてもらいたいです。元々よってたかって教育は教育委員会を中心に香美市が打ち出して、よってたかって教育というのはみんなで大人も子どもも、学び合う、教え合う、高め合うみたいな、よってたかってなんですよ。よってたかって教育をする中で、誰が先生になるかという時に、あの時の話では畑の隅に先生マークをつけておこう、誰かが畑をしていたらそこへ行って、これは何をつくっているの、と聞いて構わないというマークまで作ろうという話も当時あって、その中からよってたかって先生みたいなのが出てきて、それがまちの先生というのが中央公民館にあるという話になって、じゃあ何人いるのか、数人、と。先生が足りないね、いや地域協働本部では何人、全部合わせたら何百人いる、そういう話になって、それならよってたかって教育の中心はそこになる、という思いで僕らはやっていたけど、そこをどういうふうに重く受け止めていただいていたのでしょうか、というのがまず一番聞いていて思うことです。よってたかって教育というからには、皆が先生になって子どもたちに教えましょうね、って言っているくせにそれができていない。まちの先生も本当はがっちゃんこできたら一番いいんだけど、もっと言うと地域協働本部それぞれが学校にあるので学校の中にあるその名簿を、全体の会の中で持ち寄って一本化していいかと、これは学校協働本部にやってもらわないといけないことかもしれないが、さらにそこからこちら側と一緒にやってくれないかという話は、別に全然できる話だと思う。今登録してくれている人の名簿があるのだから、はがき一枚だせば終わり、やってくれないかと言ったら。嫌です、っていう人がいたっていい。やっていいという人は、僕らの感覚ですが、何百人もいる中で10~20人よりもっといると思う。多分、今登録しているまちの先生より多いと思う。そうやってひとつずつ作って行ってやっていかないと何にも進まない。これは何年議論した？

永野委員

もう 4～5 年。

福田委員

それが今もまだこのままっていうのは、資料に「地域協働本部と連携し、」っていうことを書いているからこれでやっているんだと安心していた。・・・やっているものだと思っていましたが、今の話を聞いていると、確かに清岡先生は一生懸命やっていたけれど、清岡先生がいなくなったので今は止まっています、という答えにしか聞こえなかった。清岡先生は岡山まで勉強に行って、岡山でそうやってやっているところを見に行くと、どんな仕組みでやっているかということで、・・・まずは育成からまとめるかという話から始めてそれをみんなでシェアできるところまで行けばいいねと動いていましたよね。なんかすごくそこが残念なところで、勢いのついでに言わせてもらおうと、生涯学習、生涯教育、社会教育っていうものに対する重さがわからない。

黍原課長

前を進んでいないですが、委員から言われて気が付いたのですが、この間までこちらで座っていただいていた方を学校と生涯との事業の接着剤役に 4 月からお雇いしまして、今ぎくしゃくしている部分をどうやったら上手くいくかということで、ぎくしゃくしているわけじゃないですが、名簿についてどうするかという部分、学校が何を望んでいるか、生涯学習振興課が何ができるのか、その辺りの情報を上手くつなげていくようにしておりますので、もうちょっとお待ちください。

福田委員

竹村先生もずっと香長小学校でやりながら、こんな人が足りない、こんなことを教えて欲しい、じゃあ・・・に聞いてと言いながら、自分たちではこう動いているわけです。市が絡むと動かなくなるんですよ。だから僕が今言いかけたのは、この社会教育とか生涯教育に対して、どんなスタンスで思っているのか、というのがすごくあって、この後よってたかっの振興基本計画の話も出てくるでしょうが、委員を 6 年くらいやっている中で毎年これを聞いていっぱいやっているねと言って、でも誰も知らないね、と言い続けて 6 年経って何も変わっていない、と思っています。やっていることはブラッシュアップされているかもしれないが、社会教育だ生涯学習だと言うならその主役はまちにいる人達なわけで、まちにいる人達が「広報香美で出していますから」で広報香美を熟読してわかってそれを使ってやっている人がどれだけいるでしょうね。もっと言うと、こんなものも全部、それぞれの事業はあったとしてもリンクされてないし、大きな意味で僕は一枚のポンチ絵くらいの中に全部入るものだと思うのですが、それをすっきりと市民の皆さんにお示しして「だからこういうことがあるんだよ」っていうところがないと、ずーっといつまで経っても、これやってます、これやってます、これやってます、結果何人でした、何人でした、何人でした、その次がない。なんか、やっていることがいっぱいあってもつたいないっていう思いと、先生、生涯学習ってそんなものなんですかね。

内田副委員長

そんなもんじゃないんじゃないですか。というか、今もっとも新しい分野じゃないかと私は思っていますけどね。社会教育や生涯学習は新しいんだと言い続けて来たけれど。

福田委員

先生にも何年もお付き合いしていただきながら、香美市は本当にいろいろやっているなど、僕は改めて知って大したもんだと思っています。けれど、何かそれがシェアできていないとか、お互いがリンクして高め合えていないとか、そんなものなのかどうかはわからないのですが、それをよってたかってという看板を上げるならやりきらないといけません。よってたかってがなかったら、別にこれでいいんでしょうが。

黍原課長

言い訳をちょっとだけ。コロナでできなかった。

福田委員

わかっています。コロナでできないのは対面での活動であって、これはいくらでも使える。逆に言えばここを使う期間だった。じゃあ、コロナで今これができない、これができない、事業が減って楽になった、それならこの期間にじゃあこの課題をどうしたらいいだろうと、考える時間はいくらでもあった逆に。

黍原課長

新しい事業も・・・まちの先生については名簿の関係がうまく擦り合わせが出来なかったですが、公民館に関しても図書館も事業が進んでいますし、色々と前へ前へとは進めてきましたが、見えていないですよ。すみません。

地域への説明というのは、確かに皆さんに生涯学習が何が出来ているかということ、市民の方が皆さん知っているかということと確かにそこは理解してもらえていないなと思っていますので、そこに関しては情報発信とかどういうふうにしたらいいのかなとちょっと。

佐々木委員長

そこですが、いつも広報へ載せるからというのは、広報は誌面が限られているので、教育委員会が載せられるところはせいぜい1ページ2ページ、じゃあ教育委員会で発行したらどうですか。当然、ウェブへも載せるような、広報と同じような形でウェブでも見れるような。でもペーパーでもあります、60代私たちの世代以上になるとなかなかウェブで検索というのは、してくれない方が大半になってくるので、やはり紙ベースというのも今の時代ではまだ必要な時期なので、それと一緒に毎月である必要はないので、例えば年に1回とか2回とか、こういうまちの先生がいますよとか、教育委員会はこういうことをやっていますよとか、先程福田委員が言われたように1枚のペーパーにまとめるくらいでもいいので、例えばそういうものをコーディネートしてみて教育委員会として発行していくとか、試しに出してみるとか、一つの案としていかがでしょうか。当然予算も要るので、予

算取りも必要ですが、それくらいの予算なら多分すぐつくんじゃないかと思いますが。横の連絡があまり取れていない、私もここにいたので、地域協働本部とこの公民館との連絡というのはほとんど取れていないような状況の中で、お互いがまちの先生を探している、個人的にNOであればNOでいいので、YESの方を社会教育もOKですよ、地域協働本部のまちの先生で学校も社会教育もOKですよっていう方を名簿として載せるとか、そういうフレキシブルな対応ができるんじゃないかと思うんですけど、そこについてはなかなか各課では非常に動きにくい組織ではあるので、できれば次長とかトータルでコーディネートできるところで考えていただいて、全体的にどう動かしていくかというところも、福田委員が言われているように、私も三期目で、最初は公民館長としてこの会に出席していましたが、その時からこの課題が出ているんですが、なかなかコーディネートしてトータルリングしていく方がいないんです。そこをまず誰かが手を挙げて、と言ったらもう仕事になってくるので、教育長のほうで考えていただいて、それをずっとしてこられた先生もおいでたんですけど、その方がいなくなったらぼちゃってしまったではダメなので、そこらへんは大きな課題をいただいたので、教育委員会として次の社会教育委員会の時に、こうやって始めましたとかいうところでいいので、是非ご検討いただいたらと思います。

正木副委員長

その件ですけど、学校の先生というのは人をあまり知りません。ですから是非さっきの微生物で紙を作るという方もおいでるって、それって理科の授業でも使えるし、探究活動にも使えるので、是非そういうリストがあれば学校の先生に提供していただいて、それを活用するというのができたらいいなと思います。是非よろしくお願いします。

佐々木委員長

はい、ありがとうございます。

永野委員

すみません、まだ二つあります。もう一つは、27 ページにあります高知大学出前公開講座の龍河洞に関する部分で、小学校の総合で動いているところがあるんですよ。そういったところと連携するという考え方はないですか。

白川教育長

内容的にどうなのかなというのは、小林さんと話をしたところでした。また今年もやりますので、そこは小林さんと話をしたところですけども、対象をどこまでに絞るのかというところではあります。内容によっては、もちろん学校のほうに知らせてはいきます。

永野委員

できたら難しくても構わないので、こういう世界があるということを子どもたちに教えていくことが大事だと思います。特に、総合で片地小は3年生か4年生が龍河洞に2年に1回行って南国の小学生を呼んで説明するというのであれば、もっと深く知る上では難しくてもいいし、・・・40分だけでもいいので聞くとかいう形をとっていくことが大事だと思う

ので。

白川教育長

去年はそういう形をお願いをしてとっていただきましたので、できれば土曜日じゃなければみんな参加できるので、またそういうこともやっていきたいと思います。

永野委員

是非お願いしたいと思います。後、もう一つ。人権の部分の中で「インターネットを通じて起こりうるあらゆる犯罪について学習する」に子どもとありますが、鏡野中の運営協議会でも話をしましたが、申し訳ないけどすごいことになります。InstagramとかT i c T o cとかで子どもがアピールするのは構わないけれど、普通に鏡野中とわかる制服を着て位置情報や時間も全部わかる状態の動画を流したり、中には名前が入った体操服姿がそのまま流れたりとか、危惧する部分が非常に多くなってきています。これは子どもだけを対象にやってもまったく意味がないです。与えている保護者が責任者で、携帯の登録名も全部保護者の名前なんです。保護者はフィルターをかけずにそのまま子どもに与えて使わせている、私自身、自己PRすることには何も問題ないです。自分が使えるものがあればそれを使うことはいいことですが、最低限度親としてそれを守れるくらいの力をつけないとだめだけれど、どちらかという子どもの方が先進すぎて親がまったくついていけない状態です。前回の運営協議会に教育長にも来ていただいて話をさせていただきましたが、これは香美市全体で考えていかないと小学校中学校レベルでは追いつかない。学校の先生は携帯を持ってこないなんて一言も言ってないです。むしろ携帯がないくらいがいいのですが、いちいちそれを問題にしてやらなければいけないという感覚になってきているので、もちろんそれぞれの小学校のPTA、中学校のPTA、それぞれの運営協議会と連携してやろうとしています。香美市全体として考えていかないとだめじゃないかなと思われるので、人権だけの問題じゃなくて、市民講座であったりいろんな部分にそういったものを入れていただければ、山田地区の5小1中の連携を深めるために運営協議会も一つにして発足させようとしているので、そういった部分で皆さんに広めることも可能なので加味して考えて頂きたいと思います。以上です。

佐々木委員長

はい。ありがとうございます。他にもあるかもしれませんが、議題がまだ残っていますので、次にいきたいと思います。議事4の「次期教育振興基本計画策定に係るアンケート案について」を事務局からお願いします。

(宇根班長 アンケート案説明)

佐々木委員長

はい、ありがとうございます。今回のアンケートについては令和6年以降の10年計画について市民の方からアンケートを募集しているという形ですので、なかなか先の事にもなりますし、コロナがどんな状況になるかというのも手探りの中でのになりますので、大変だ

と思いますけどよろしく願います。これに関してご意見ご質問はございませんか。

はい、ではアンケートについては粛々と進めてください。議事は以上になります。

正木副委員長

すみません、アンケートとスポーツ振興についてちょっと関係があることなんですけど、スポーツ振興するうえでスポーツをする場所、特に屋内競技をする施設が香北にもあるけれど老朽化しているとのことですが、例えば観客席のある体育館が山田に建てば南海トラフ地震が来た時にもいいし、人も呼べるし、いろんな面で活性化するんじゃないかと。宝町にも体育館はありますが、とてもじゃないけどあそこで大会をすることはできませんよね。すごくお金のいることですが、20～30年後に子どもたちが成長した時に、あってもいいのかなと僕はふと思ったんですよ。流入人口、若年層も増えてきているということなので、これはいつかどこかで議論しないといけないことかなと思います。スポーツと言っているがする場がない、土佐山田スタジアムはあるけれど夜は使えないとかね。いろんな制約があって本当に振興なのかな、スポーツ少年団も含めてね。だから、やるからには箱もいるのかなと、僕はそういう気がします。山高の体育館くらいじゃないですか。あそこは県立の施設なのでしょっちゅうは貸せないですよ。という思いもありまして、学校も使えるし民間も使えるし一般市民も使える、そういうものがあってもいいのかなと思いました。この中に施設についてのお尋ねというのがあるので、それに関する（質問が？）あってもいいのかなとは思いましたが。利用したことがあるかないかだけじゃなくて。

福田委員

他にほしい施設がありますかって。

正木副委員長

そうそう。例えば体育館施設とか、サッカー場とかね。

福田委員

市民の声だったら、市長も金をつけなきゃいけない。

正木副委員長

せっかくいいものが、図書館もできることだし。この際。

白川教育長

あの周辺で。

正木副委員長

そう。本当に思います。鏡野中学校も使えていいんじゃないですか。

白川教育長

西北のほうとか。

正木副委員長

鏡野中学校の体育館もすごく古くなっているでしょう。

白川教育長

結構お金を入れてこれからまた使えるようにしていこうと。けど市民の皆さんに活用していただけるようなところでは・・・

正木副委員長

ぜひそんなところがあってもいいんじゃないでしょうかね。すごくいいところだから。市内からのアクセスもいいし。

佐々木委員長

もうすでにその他のほうへ入ってご意見をいただきましたので、その他で何かほかに。

濱口委員

美良布地区公民館長なので、バカロレアについての・・・ついていける生徒とついていけない生徒の温度差があるという話を聞いています。ついていける生徒はどちらかという親がかなりテコ入れをしてバカロレアを推し進めていくための家庭でのバックアップが盛んにされていて、ついていけない生徒は両親が共働きでなかなか子どもの面倒が見れない方と、生徒の父兄からそういう話を聞いていまして、当然いいことにも表と裏がある話だと思いますが・・・一度アンケートで聞くなりして修正して行って、何割がうまくいって何割がうまくいってないのか、その辺りを精査する時期じゃないかとそんな気がしております。

佐々木委員長

はい、ありがとうございます。

白川教育長

貴重なご意見ありがとうございます。バカロレア教育というのはIB教育ですけれども、だんだんと皆さんに知っていただけるようになりまして、言葉が独り歩きしているのかなという所も感じております。ずーっと毎日毎日バカロレアのプログラムで勉強しているかというところではなくて、学校教育の中のバカロレア教育でございますので、週3時間、予備という時間がございませうけれどもそれを利用していわゆる総合的な学習の時間に、様々なグローバルな世界的な課題のようであるけれども実は地域の中にある課題を扱って探究を進めているというところで、説明不足というかそういう点がどうも私は大きいと、だからずいぶん誤解を受けていて、通常の学校においてもどんどん進む子と遅れていくという子どもさんがいるわけで、そういうことを生んではいけないですけど、実態としてそういうことが考えられた場合には、ゆっくりいっている子どもさんたちに学校としてどういう支援をしますかということ、各学校での大きな取り組みになっています。そういう意

味での、すごく学びが進んでいる子どもさんと少しゆっくりめの子どもさんに対して学校としてどういう手立てをしているのかというような説明をきちんとしていくことと、バカロレアだからそうなるということではないということをもう少し丁寧にお伝えする機会を教育委員会としてももちたいなということをつくづく考えています。これから世の中がどんどん変わっていく中で、いろいろな課題に子どもが対面した時にまずは自分で考えて、まちの先生、先生という言葉はどうかと私は・・・協働で・・・していこうよと、そういう力が求められていますので、香美市としても大切に今後も発展させていきたいと思っています。でも館長さんがご心配していただけるように、せっかく学校が頑張っているのに、地域の方々により一層理解をしていただかないといけないということを、今また改めて思いましたので、教育委員会のほうでも具体的に考えていきたいと思っています。ありがとうございます。またご支援をよろしくお願いいたします。

濱口委員

先生の中でもこれの取組に対して、先生の質がそれに伴っているのかということも、バカロレア絡みで香北ではなんとか踊り、踊りがあるんですが、この時も先生はそこへついているんですが自主性に任せるということで、生徒はもじもじしてことを始めるので、それがそもそもバカロレアとかけ離れた考え方をしているのかもしれませんが、サポートの仕方とかいろんなところでもっと生徒に対してサポートのやり方があるんじゃないかと、そんなことをちょっと思ったことがありますので。そこがちょっと気になる部分です。

佐々木委員長

はい、ありがとうございました。

内田副委員長

私も二つほどお話させていただいて終りにしようかと。一つは、先程福田さんのやりとりで社会教育は新しいんだ、生涯学習、学ぶということは新しいんだということをずっと言い続けてきているんだという話をしましたけれども、本当に今いろんなところに課題があって、悩みがあって、矛盾があって、もうそれはあらゆる部署がそうわけですね。福祉も医療も環境も、林業、産業も、あらゆる分野にいろんな課題があって悩みがあって矛盾がある中で、まさにそういう課題を学習として展開していく、学び合うようにその課題を作り替えていく。つまり課題は解決しないですよ簡単には。完結したら課題じゃないので。でも課題の解決に向けて、みんなが学び合ったり高め合ったりする、そういうふうな学習化する、硬い言葉ではそうなんです、そういう場をたくさん用意する。例えば先程のバカロレアもそうですよね。まだまだバカロレアということについての理解や、あるいは考え方の違いやそういうものがあって、いろいろな課題も生じている中でバカロレアについての学習を公民館でやる、あるいは林業で今こうなってきたそれを公民館で学習する、インターネットのいろんな問題が起きている、それを公民館で学習として取り上げる、そういうように実は今学ぶということはものすごく新しいことだし、課題解決に向けて公民館としてやれること、あるいは社会教育としてやれることはいっぱいあるんじゃないかという話をずっと言っているわけです。まさに新しいはずなんだけれども、なか

なかっていうそういう状況なんですね。全国的になかなかそうならない理由もどこかにあるんでしょうけれど、それはともかくとして、そういう視点で見たときに、今日の取組なんかだともう決められた、公民館のほうで全部準備してしまった講座に参加しましょうと呼び掛けているだけなんですよ。それで参加しましたかって言われて、してないです、なぜしないんですかっていうアンケートになっていっちゃうんですよ、振興基本計画のアンケートの作り方が。でも最初に私がお話したように、今皆さん何で悩んでるんですか、どんな課題があるんですか、お年寄り元気ですかとか、そういう市民の悩みや課題を尋ねるっていうのが、まさに生涯学習アンケートのはずなんですよ。それを受け取って、どうやって学習をしていこうか、っていうふうに組んでいく。その時に、公民館職員が先生になれないので、公民館だけじゃないですよ、図書館や博物館もみんなそうですけれど、そこはまさに職員がどうやってどんなふうに学習化していくか、つまり話し合ったり先生を呼んで来たり、なんか情報発信したり、チラシを作ったりいろいろするわけですけども、そこには公民館職員全部がやるんじゃないで、やりたいと思う市民の人がいっぱいいるわけです。それで一緒に勉強しませんかとか、高齢化について一緒に学んでみませんかとか、そんなふうにやっていくのが社会教育だし、生涯学習なんですよ。これは今、話をしているのは、地域課題という言い方をすると狭くなりますが、文化活動であろうとスポーツ活動であろうと広くやりたいこと、あるいは考えていること、どうしようかなって悩んでいること、そんなことはみんな取り込んでやっていこうとすれば、そこに意味があるんだとずっと思っているんですけれども、なかなかそういかずになっていることがあります。

二つ目は、高知県全体もあれですが、香美市はすごいんですよ。公民館がありますよね。今度また図書館がすごくなりますよね。そして博物館がありますよね。体育スポーツ施設がありますよね。そして文化協会を始めとしたそういう文化活動やお祭りをずっとやってきていますよね。そして、学校協働本部が出来ていますよね。こんなに分厚い施設や仕組みが折り重なるようにあるという自治体はそんなにないですよ。大体、公民館が元気なところは図書館がだめだったり、図書館が動けるところは公民館がだめだったりするケースもありますし、そういう運営がどんどんどん箱モノだけで作ったけれど動かないようなところもいっぱいある中で、香美市はこれだけ学習する条件が整えつつあるわけです。どどん整えてきていると、私は思っておりますし、そういう意味ではとっても、大学もありますしね、すごいところなんですよ。それを目指してみんなで一生懸命やろうよって言ってるわけで、すごいなといつも感じているわけです。図書館も、私もオーテピアの基本構想から関わって、今も四万十町で図書館の文化施設の委員長をやったり、日高村でつくってきたり、今実は土讃線沿線は図書館ブームなんですよ。オーテピアの影響だと思いますが、日高があって、佐川があって、須崎ができて、四万十町ができて、梶原もあり、中村もあって、土佐清水もありますよね。そういう意味では西のほうは図書館ブーム。東のほうはここが一つの起爆剤になるかなという思いもありながら、図書館というのは非常に大事なところなんですよ。これはようやくオーテピアができてその影響が県内の自治体にも反映しつつ、いい職員の方もいて、非常に増やしていただいてすごい図書館の可能性が香美市にはあると思うんですよ。市民全員が登録して本を借りられるとかっていう状況がどこぐらいまで伸びるかなっていうのが一つの目標かと思うんですけど。どどん

んここが利用されて図書のみならず、情報の発信源でもあり、課題解決支援型の図書館というものを目指しているわけですから、そういう意味ではよってたかつての本当に中核の施設になるだろうとそんなふうに思っているわけです。その周りに、公民館があって体育館があって文化施設があって学校支援本部があれば、もう理想的な学びのまちになるっていうふうに感じているわけです。そんなふうに今日伺っておりまして、また次につながるんじゃないかと思いました。

佐々木委員長

はい、ありがとうございます。

もう時間がきましたので、以上で社会教育委員会を閉じたいと思います。事務局はたくさん課題をいただいたと思います。この場は私たちが企画立案をする委員ではないので、皆さん方がどんどん企画立案をしていただいて、それを審議していただく場だと理解をしていただければと思います。今の雰囲気はこちらが企画立案をするみたいなところがあります。今日の図書館の門脇さんのように、どんどん提案をしてきてください。それによって、私たちは市民からの代表としてというか、市民側に立って様々な意見を皆さん方に投げかけていきたいと思いますので、以上で議長を終わらせていただきます。

宇根班長

ありがとうございました。

白川教育長

本日はどうもありがとうございました。あっという間の時間でございまして、貴重なご意見をたくさんいただきました。ありがとうございます。日頃、私の中でもちょっと引っかかっていることなどについて、たくさんご意見をいただきましたので、具体的に進めてまいりたいと思います。どうぞ今後ともご支援ご指導のほどよろしく願いいたします。本日はまことにありがとうございました。

(閉会)